

北海道浦河周辺の地震活動（1885 - 2000年）

Seismicity near Urakawa, Hokkaido(1885-2000)

本谷 義信[1]

Yoshinobu Motoya[1]

[1] 北大・理・地震火山センター

[1] ISV, Hokkaido Univ

北海道浦河周辺の地震活動を調べた。

1885 - 2000年の期間に、M6.0以上の地震は101回（年当たり0.87回）発生している。70 kmより深い地震は13回のうち5回が1982年浦河沖地震（M7.1）の後に発生し、この地震後やや地震回数が多くなった。しかし、60 kmより浅い地震は1983年12月から17年間発生しておらず、この17年間では最も長い間地震が起きていない期間が続いている。

地震は1926年頃から1982年浦河沖地震の震源域に向かって徐々に集中する時空間分布を示していた。

北海道浦河周辺は地震活動が高く、多くの被害地震も発生している。この地方の地震活動についてはすでにくつかりの調査研究がなされているが、地震資料の蓄積が100年を超したので、大きな地震に焦点をあてて、あらためて地震活動の調査をした。大きな被害を出した1982年浦河沖地震（M7.1）がこの地域の地震活動の中で占める位置を明らかにすることが目的である。

資料は、1885年から1925年までは宇津（1982）の表、1926年から1960年までは気象庁の改定地震カタログ、その後は地震月報から得た。Mが6以上の地震は1885年から2000年までの期間に101回（年当たり0.87回）発生している。70 kmより深い地震は、13回のうち5回が1982年浦河沖地震の後に発生しており、この地震の後で地震回数がやや多くなった。一方、60 kmより浅い地震は1983年11月30日のM6.0の地震を最後にMが6を超える地震は1個も発生していないことが注目される。

見出された地震活動の特徴をあげる。（1）1982年浦河沖地震の震源域の南方に1950年より前には地震がほとんど起きていない領域があった。（2）浅い地震活動は1926年頃から1982年浦河沖地震の震源域に向かって徐々に集中する時空間分布を示していた。（3）Mが6.5から6.9までの地震の発生状況は1950年前後で明瞭に異なっており、50年より前の地震はかなり規則的に繰り返し発生していた。（4）浦河周辺の地震活動が高かったのは、1930年代の前半、1952年頃、1968年頃の3回で、それぞれ海溝近くで巨大地震が発生した時期に対応している。

この100年間の浦河周辺の地震活動は、海溝での巨大地震活動期と1982年浦河沖地震の影響が重なって、変動していたと考えられる。